

## ■平成28年度 第1回 大和市街づくり推進会議 会議録■

- [会議名称] 平成28年度 第1回 大和市街づくり推進会議  
[開催日時] 平成28年5月25日(水) 10時から11時半  
[開催場所] 大和市保健福祉センター4階 講習室I・II  
[出席委員] 10名(欠席:1名)  
[出席]: 饗庭 伸/宇津木 朋子/江村 郁子/須賀 良二/菅 孝能/仲村 邦弘/  
星野 澄佳/南 真美/吉田 洋子/黒石 いずみ  
[欠席]: 松本 久美  
[事務局] 5名(街づくり計画部長、街づくり推進課長、街づくり推進担当3名、)  
[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483  
[傍聴者] 0名  
[公開の状況] 公開

---

### I. 会議次第

---

1. 開会
2. 議題  
○平成28年度 街づくり啓発事業について
3. その他
4. 閉会

### II. 内容

---

1. 開会
2. 議題  
○平成28年度 街づくり啓発事業について  
質疑応答(○…委員 ▼…市)

---

○質問、アイデア等あればお願いしたい。

○やまと・ブランド・発見について、大和市のブランドと言っても多様な特徴を各地で持っているが、やはり中心となるようなポイントがわかりにくい。個別のイメージの集積というだけでない、全体のイメージをブランド化するというフレームはできないだろうか。大和市は南北に長く、ブランドに関しては各地で多様であるが、例えばその長いことなどを生かしたような、全体的なブランドとして何かイメージは描けないのか？

▼ブランド発見は、啓発事業の中で、街づくり賞をしてきたが、事例が尽きてきたり応募作品がなかったりするの、特定の地域について、その地域らしいところをブランドとして発見して

いこうというもので、第一回は中央林間で開催し、今回二回目となる。内容としても固まっているものではない。中央林間地区の次に大和地区で考えている。街づくり学校とからめながら開催する。大和市全体のブランドとしては設定していない。

- コンセプト的な、今だけのものではない、後に残るような大筋があったほうが良い。代替わりをした際にも運営がスムーズになる。地域のつながり作りに関連した意見があったが、街づくり学校でこれまで行ってきたことは、地域のつながり作りと言えると思う。地域づくりで、ルールづくりかたや、実際の街づくりに役立つことを教えるようなことをしていくのか、それとも社会のため、持続可能な街づくりを助けることを目標にしていくのか？フレームみたいなものを決めたほうが良い。大和市の街を見渡してみたが、何がそれにあてはまるか考えたが分からなかった。もう少し議論が進むと出てくるかと思う。今年市の中でこれがテーマだというようなものがあるのか。
- 大和駅周辺を選んだというのは、文化創造拠点が開館するのもあると思うが、その拠点に行くためのメイン導線はプロムナードになると思うが、大和駅のプロムナードを改修する計画はあるのか？
- ▼今年度、プロムナード、駅から東側については、公共施設がオープンするので、街路を改修したりしている。今後色々な街づくりと関わっていくことが考えられる。民間の土地は、駐車場や老朽化した建築物の再生などは市として働きかけていき、文化創造拠点と絡めて様々なことをやっていく方針だ。今まで20年ほど様々な開発をしてきたが、今後色々な敷地を共有して再開発をしていくことは現実的にはできない。
- 大和駅周辺の再開発には時間がかかっている。そもそも何のためにするのか？地域の商業者の方々も、自分たちの街に人々が来てくれるのは嬉しいと思うし、ただ地価が上がるというだけではなく、賑わいとかを作っていきたいという欲望が根底にあると思う。市としても、わざわざ文化創造拠点を大和駅に持ってきて、それだけ投資しているからには、活性化していかないと困る。街づくりっていう観点から見たときに、どういうものがこの街には必要なのかを考えなければならない。市は大和駅周辺の再開発に力を入れているが、ブランド発見のような抽象的な啓発事業よりも、ブランドを作ろうといったような、より川下的な事業をするほうが良いのではないのか？
- ▼敷地を共有化して街づくりを進めましょうというのは、いろんな組織の兼ね合いがあってできなかった。それだけを今後も続けていきたいと思いますというのは違う気がする。地権者対市民ではなく、あくまでも街のブランドに気が付くようなもの。だれが主体であるかではなくて、それをうまく、個別の開発目標につなげていけるといい。ブランド発見は、街づくり学校などに参加したことがない人が気軽に参加できるものとして考えていた。参加のしやすさと、どこに成果を設けるかをもう少し考えていきたい。
- 事業がまだ先なので、練り直したほうが良い。学生などにアイデアをもらい、より面白くしていけないか。最近商業者の人々がクイズ形式で家族や友達同士が参加するようなイベントをしている。とにかく今まで関心を持っていなかった人に来てもらえるようになにか面白いやり方を提案すると思う。例えば、小・中学生の友達同士の参加も面白いのではないのか。行政が企画すると、面白みに欠けたものになってしまう。

- イベントは何のために開催しているのか？大和駅周辺を題材にして市民が参加できるイベントをやろうというのか、実現性は関係なく案を出し合うのか、それとも実現を前提に案を出すのか、それによって全然違ってくる。大和駅のプロムナードは商店街に背を向けている。ただ通るだけのところになっているので、改善したほうが良い。通過する空間をどうするのかを考えるべき。そこを詰めないでワークショップをやっても面白い成果は出ないのではないか。
- 大和駅周辺は実によく発展していかないと思う。プロムナードこそが、大和の街の発展を妨げる理由。プロムナードの両サイドに商店街があるが、それにつながる道がない。ただ通過するだけの場所となってしまっている。また、ガードも大きな障害となっていると思われる。プロムナードに沿って駐輪場になっている。ある意味で必要だが、あそこにあることでさらに両サイドを遮断する効果を生み出していると思う。プロムナードの駐輪場は、2つのプロムナードを遮断している。ブランドに関する啓発事業では、やるからには非常に具体的な焦点に絞ったほうが良い。そうすると、意見が出しやすく、もし、実現を前提に案を出すことに絞ってワークショップを実施した場合、それらを実現の方向に持っていく気構えが必要。意見を出したのに、何も実行されないというのは避けなければならない。
- 昨年、各商店街を見て回った。高齢化でビルをテナント化しているところが多い。そのため、店子が何をしても自分たちには関係ないという方々が多いと聞いた。または、自分たちの代で終わりにするという人々かのどちらか。文化創造拠点にせっかくお金をかけたのだから、そこに来る沢山の人々をただで返してはいけない。商店街は、結局、建設中もそこで働く人々に働きかけることをしてこなかった、という声も聞いた。商店街側が、自分たちで、そこに来る人々の足を止めようという意識が薄いのではないか。商店街の人々は、客を自分たちの方へ取り込む意識が希薄。事業内容もブランド発見というより、もっと地に足の着いた事業の方が良いのではないか。さらにイベントの後に、商店街の人々を呼んで、提案をするような感じにしないといけなのではないか。
- ▼周辺住民から、静かにしてほしいとの要望が多い。近隣の人々は土日静かにしてほしいとの要望を持っている。阿波踊りに関しても様々な意見がある。市民祭りに関しても、保健上の問題もあるが、様々な問題を背景にプロムナードでの開催を今年は見送った。今後、文化創造拠点を起爆剤にしていかなければならない。付近にマンションが多く、市民祭り等でも市民からの要望が多い。また、商店街は行政があまり関与すべきでない分野でもある。大和駅周辺は便利でマンションが多いので、20万人が乗り換えるが、決して降りほしくない。中央林間に関しては徐々にその点が改善しつつある。
- なかなか、現状の商店街を見ると、若い人たちが興味を持ってない。しかし、若い人たちが興味を持てるようにしていかないと商店街は変わらない。オープンカフェやマルシェを開くなど、そういったことに興味がある人を呼び込んで、空き店舗が出たときに若い人たちがそこに入っていくと賑わいが出る。例えば、反町は横浜の隣の駅だが、横浜には家賃が高くて入れないような人たちが店舗を作り、ネットワークを形成していく。大和もそうしていけば良いのだが、やはり大和の家賃は高いのか。今後コンサートなどで、違う層の人々がたくさんくるから、その人たちを呼び込んでいかなければもったいない。
- 例えば人を集める企画としてフリーマーケットがある。私が住んでる地域ではフリーマーケッ

トがたまに行われる。家族が出店したことがあるが、誰が買いに来たかと聞くと、そこに住んでいる人たちばかりとは限らないで、たまたま通りがかった人が多い。そこで交流する方は、子供の服、ファミリー向け用品などを目当てに来る方がとても多い。出店する場所によって、ファミリー層がターゲットなのか、おしゃれな人がターゲットなのか、シニアなのかも分かれる。街の人だけでなく、周辺に住んでいる人によっても、フリーマーケットの様子は変わっていく。大和の駅を20万人が通り過ぎるだけというが、南北に長い大和市の一番真ん中の場所がスルーする場所になっているというのはどうなのか。大和を対象に何かやろうと思ったら、通り過ぎるだけなのはマイナスだと思うので、降りたくなるようなプラスのことを考えなければならない。もちろん商店街の人が将来的には協力してくれなければならないが、商店街の人達のためだけのものではなくて、市民、市のための、もしくは市民以外の広い意味での「人々」のためのことを市がやりますというようなことの方が、若い人々も参加しやすいし、すぐやれる。なので、誰をとどこをを考え直すべきではないか。私の大学の学生も、フリーマーケットであればすぐやれるかもしれない。地域のブランドは、その場に住んでいる人々だけが対象ではない。たまたま通りがかった人がお客さんとなることも多い。商店街の人々のためだけでなく、大和市全体の利益になるアイデアを考えられれば良い。そうしたことを考えると、フリーマーケットのように、様々な方が参加しやすい企画がいいのではないか。

- 例を挙げると、50年近く前に町田市では市民30万人の個展を実施したりもしている。市民一人一人の個展をやろう。なんでもいいから、モノを売ってもいいし、作品を展示してもいいし、踊ってもいい。何でもやってもいい。人気だった。町田市に色々な団地ができて、人々が交流をととても求めていた。私も、商業者のためのイベントにするつもりはない。大和市民が楽しめるようにしたい。あくまでも、市民が大和市に住んでいて良かった、楽しいと思えるイベントにしたい。最近、ワークショップは案を出して、それで終わりになってしまう。テストベッドといって、言い出した本人が実験的に実際にやってみるというものがある。それによって、様々なことを検証して、次はどうするかと考えていくことをやっている。その中で、公共空間の活用は大事で、公園、道路などを有効に使えるよう考えなければならない。
- 現状として商店街については、自分たちの代で終わりの人と、テナント化している人がいるとのことだが、街づくりを盛り上げていくために、その力になってくれるような人材はどのくらいいるのか。商店街の今後を担う人材はどのくらいいるのか？
- 産業活性課でアンケートなどをとった報告書を出している。平成25年のものである。そのなかでは、商店街の人々に後継者がいるかを聞いている。ホームページからも見られる。商店街のホームページを考えてみても、半数が作成当初から更新されていない。商店街の高齢化も進んでおり、ITが分からないことも原因だと考えられる。それに、自分のところのホームページを更新しても、誰が買いに来るかということは地域だけでしか考えていない。ITでもって幅広く売ろうという意識が低いのかもしれない。
- ▼平成12年に大和駅周辺における中心市街地活性化計画を策定した。商工会議所を中心に10年間実施した。その時再開発がいくつかあって、その10年間にまとめたりした。それも平成22年で期限が切れ打ち止めになった。再開発も店舗とマンションだったのが、駅から400メートルで、採算がとれないということで見直され、今の形になっている。当時の中心市街地

活性化法に基づき補助金も出るなどで、商工会議所に旗を掲げてもらってやってもらったが、芳しい結果は出なかった。

- 全体の意見としては、プロムナードならプロムナードに焦点を絞るのがいいが近隣商店街に打診しても恐らく難しい。相鉄線の上の土地の使い方など、テーマを探ったほうが良いのが全体の合意事項だろう。啓発事業ではもっとテーマを絞ったほうが良いと思う。
- 啓発事業の一環として、フリーマーケットをするのは心配。また、それらは行政の仕事とは考えにくい。街づくり学校の基礎コースと連動するのは良いと思った。街づくり学校で学んだ人たちをうまく乗せるなら、フリーマーケットではないだろうと思った。それから、専修コースでやる内容は決まっているのか。
- ▼まだ決まっていない。これから設定する。
- 街づくりに関しては、事業やイベントが自分たちのものだという意識がとても大切ではないだろうか。市が下支えしなければならないのは当然だが、市側が、場所もお金も内容も全て揃えて提供するのはいかがなものか。例えば、自分でお金を作ることや、自分たちで活動費を半分でもいいから捻出することも考えられる。そこで得た利益は好きに使用していいというようにして、どんどんみんなで励ましていく。主体的な、利益を自分たちでうむような要素を盛り込めば、より盛り上がっていくのではないか。それは可能か。
- ▼そこに行政が携われる、踏み込めるかどうかは分からず、街づくり啓発事業としてできるかわからない。
- そういうイベントなどの際は、核となる人の有無が重要。
- 基礎コースで核となる人がいればいいが、そうでないなら無理しないほうが良い。
- そもそも、啓発事業の啓発とは、誰をターゲットに啓発をするとお考えか。商店街の人々を啓発するのか、それとも、そこを行ったり来たりしている20万人を啓発するのか、そのところが分からなかった。
- ▼対象としては、その商店街の方々だけを対象としているわけではなくて、全体を対象にしており、市民を啓発する。そのために街づくり学校などの事業などを開催している。
- 街づくり学校は、街づくりの基本を学ぶなど「勉強」の要素の強いものだと考えられる。一方で、委員の考えとしては、街づくりは自分たちでビジネスのように、お金を生み出すことが大切という意識が強い。この二つの間にはズレがある。ズレは必ずしも悪いものとは限らないが、修正しなければズレはなくなることはない。また、今後必要であろう事項としては、プロムナードの使い方の規則を見直し、もっと民間に開放することだ。市役所が相鉄と決めている消極的なルールがあると思う。そこを積極的に市民に開放するべきだし、使ってもらえないならなぜ使ってもらえないのか、使ってもらうためにはどうすればいいのか、そういったことを考えていかなければならない。

### 3. 報告

- 年次報告書の最終的なものを配布したが、9ページをご覧いただきたい。土地区画整理関連で下福田地域の区画整理を目指している組合が、5月23日に組合設立認可がされた。今後、実

際に区画整理事業に向けて、設立総会なり、具体的に進んでいくと思われる。今後また具体的なスケジュールなどをお伝えしたいと思う。

○次回の日程について

第二回の街づくり推進会議は、7月から8月を予定。日程調整サイトを使って調整したいので対応をお願いします。

#### 4. 閉会

以上